

鶴城中だより

文責 校長 船津 巧 No.15

本気でやれば..

つかれがさわやかだから

「本気」 相田みつお

なんでもいいからさ
本気でやってみよう
本気でやれば
たのしいから
本気でやれば
つかれないから
つかれなくても
つかれがさわやかだから

交通教室開催

4月12日(水)、山鹿警察署から2人の警察官に来ていただき交通教室を開催しました。

自転車安全利用5則

- 一 自転車は車道が原則
 - 二 車道は左側通行
 - 三 歩道は歩行者優先
 - 四 安全ルールを守る
 - 五 子供はヘルメット着用
- この五つは絶対に守って欲しいことです。

もちろん、自転車通行可になっている歩道は通行で



きますが、歩行者の進行を妨げないように車道寄りを通行します。また、小さな子どもや老人は例外として歩道の通行がで

これは、相田みつおさんの「本気」という詩である。最初の一行「なんでもいいからさ」を変えてみよう。例えは、「体育大会」に：。少ない人数で、体育大会を成功させようと生徒会執行部が応援団リーダーが、よきこのリーダーが頑張っている。本年度テーマ「挑戦」やるからには全力で「挑戦」やるから表現したことになるのではないか。三年生は、中学校最後の体育大会を素晴らしいものにしたと張り切っている。去年の大会以上に感動の大会にしたいと

力を合わせ頑張っている。一方、後藤静香さんは、同じく「本気」という詩の中で「本気ですれば たいいな事ができる 本気ですれば なんでも面白い 本気でしていると だれかが助けてくれる 人間を幸福にするためにも 本気で働いているものは みんな幸福で みんな偉いと表している。

長い人生の中で、中学生や高校生の時以外に、本気で何かに打ち込むことはどれほどあるだろうか？

きます。

特に、14歳以上の人が、交通違反(一時停止違反や信号無視など)を、三回続けると警察から呼び出しがあり、講習を受けなければならぬことや、罰金の話などを聞きました。道路交通法でいえば、自転車といえども軽車両です。違反をすれば、処罰があるということにビックリした生徒も多いようです。

ず、安全運転に努めることで自分の命は自分で守ることを確かめることができました。その後、グラウンドに描かれたコースは走りましたが、フラフラ運転が気になりました。

あの日から二年

4月16日(日)、熊本地震の本震からちょうど一年がたちました。授業参観日でしたので、朝から、全校生徒で震災による被害者に対する黙祷をしました。



1年生の理科授業

被災地の一日も早い復興を願いたいものです。さて、授業参観には、たくさんの方の保護者に来ていただき、一年生は理科の

集団宿泊教室

4月19日、20日の一泊二日で、一年生は集団宿泊教室に行き、菊池自然の家を拠点に活動を行いました。小国高校の生徒



楽しい2日間で、10名の仲間と一層仲良くなれました。菊池少年自然の家のスタッフの皆さんお世話になりました。

も宿泊しており、朝夕の集いなどで交流ができたようです。観音岳登山では、疲れたくと連発していましたが、天狗杉では、楽しく遊びました。火起こしにも挑戦し、起こした火で飯盒炊飯とカレーを作りました。

